

第1章 伊勢市水道事業ビジョン策定の趣旨

1.1 伊勢市水道事業ビジョン策定の趣旨

(背景)

本市水道事業*は、旧伊勢市水道事業において昭和26年1月に計画給水人口*50,000人、計画一日最大給水量*10,000m³/日にて創設認可を受け、以降継続的な人口増加と経済成長に伴う水需要の増加により、5回の拡張事業を行いました（旧御園村を含む）。旧二見町水道事業は、昭和44年3月に計画給水人口9,000人、計画一日最大給水量1,620m³/日にて創設認可を受け、以降観光人口の増加及び生活様式の変化等に伴う水需要の増加により、2回の拡張事業を行いました。旧小俣町水道事業は、昭和40年3月に計画給水人口7,700人、計画一日最大給水量1,694m³/日にて創設認可を受け、以降生活様式の多様化や核家族化の進行に伴う水需要の増加により、3回の拡張事業を行いました。また、平成17年11月には、旧伊勢市、旧二見町、旧小俣町、旧御園村の1市2町1村による市町村合併に伴い伊勢市水道事業として計画給水人口142,196人、計画一日最大給水量96,720m³/日にて創設認可を受け、平成27年4月には給水区域の拡張（朝熊町地区）や矢持簡易水道*の事業統合、浄水方法の変更、水源計画の見直し、併せて事業計画値の見直しを行う第6次拡張事業の変更認可を受け、現在、計画給水人口129,200人、計画一日最大給水量64,100m³/日にて事業を運営しています。

また、本市水道事業の経営計画として、平成20年度に目指すべき将来像を描き、その実現の方策を示した「伊勢市水道事業基本計画」を策定し、平成30年度を目標年度として計画的に事業運営を行ってきました。

(趣旨)

厚生労働省は、人口・水需要の減少や東日本大震災を踏まえ、水道事業を取り巻く経営環境が大きく変化してきたことから、平成16年6月に策定した「水道ビジョン」の見直しを行い、平成25年3月に「新水道ビジョン」を策定しました。これは、水道を取り巻く経営環境の変化に対応し、今後もすべての国民が水道の恩恵を享受し続けることができるよう、50年後、100年後の将来を見据え、水道の理想像を「持続」「安全」「強靭」の観点から明示するとともに、その理想像を具現化するため、今後取り組むべき事項や方策、関係者の役割分担を示したものです。

このような背景を踏まえるとともに、先の伊勢市水道事業基本計画の策定から10年が経過しその目標年度にあたることから、本市水道事業が現在抱える課題に対して、中長期的視点に基づき将来あるべき理想像を示すとともに、その理想像を具現化するための具体的な取組を示す「伊勢市水道事業ビジョン」を策定するものです。

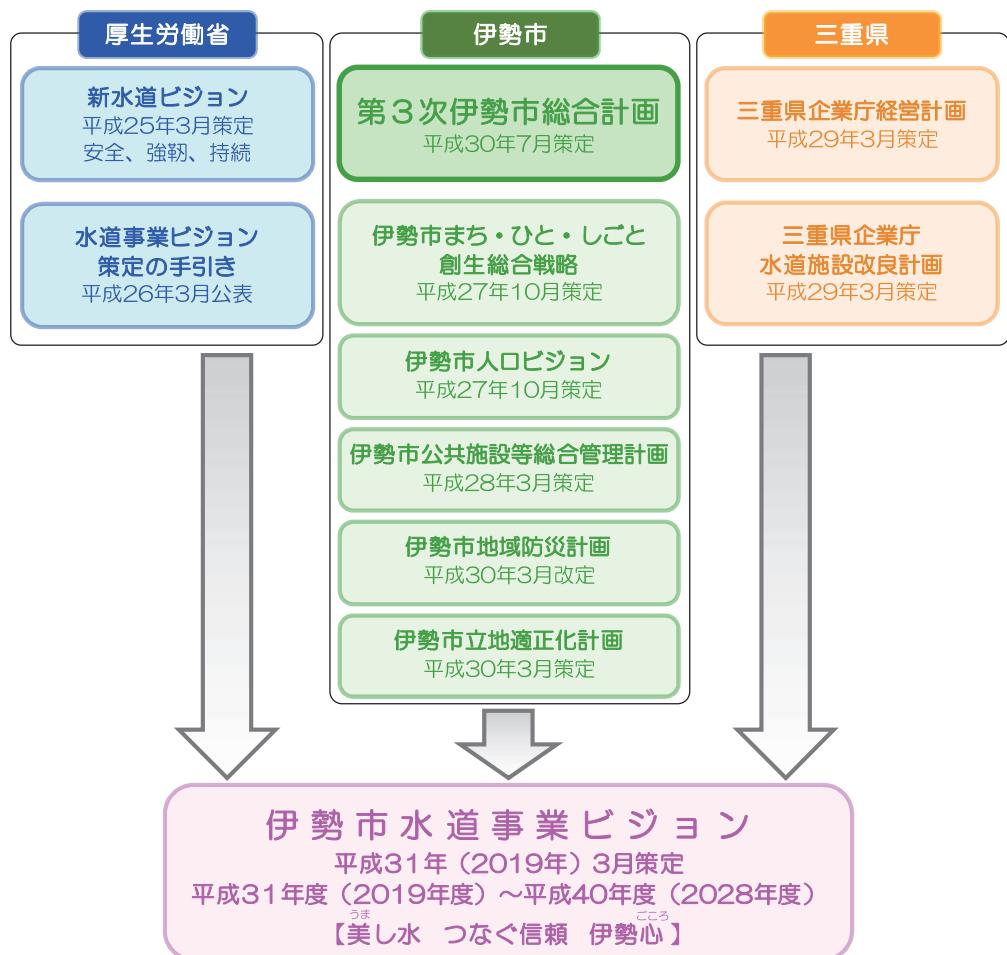
なお、本ビジョンは、本市水道事業における経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を含むものです。

「」付きの用語は、巻末の用語集に具体的な説明を記載しています。

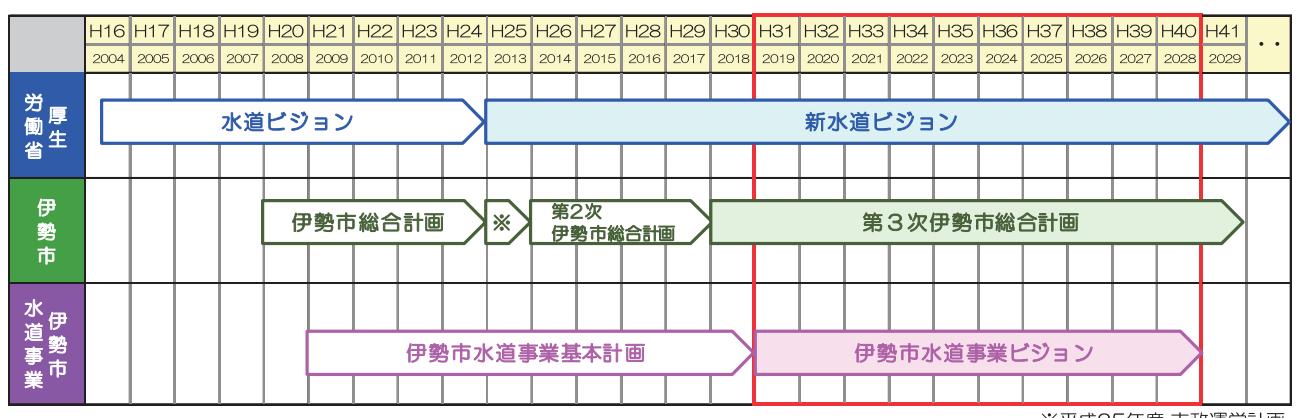
1.2 伊勢市水道事業ビジョンの位置付けと計画期間

伊勢市水道事業ビジョンは、厚生労働省が策定した「新水道ビジョン」や市の上位計画である「第3次伊勢市総合計画」、三重県企業庁が策定した「三重県企業庁経営計画」と整合・調整を図っていくものです。

本ビジョンの目標年度は平成40年度（2028年度）とし、計画期間は平成31年度（2019年度）から平成40年度（2028年度）の10年間とします。



図：伊勢市水道事業ビジョンの位置付け



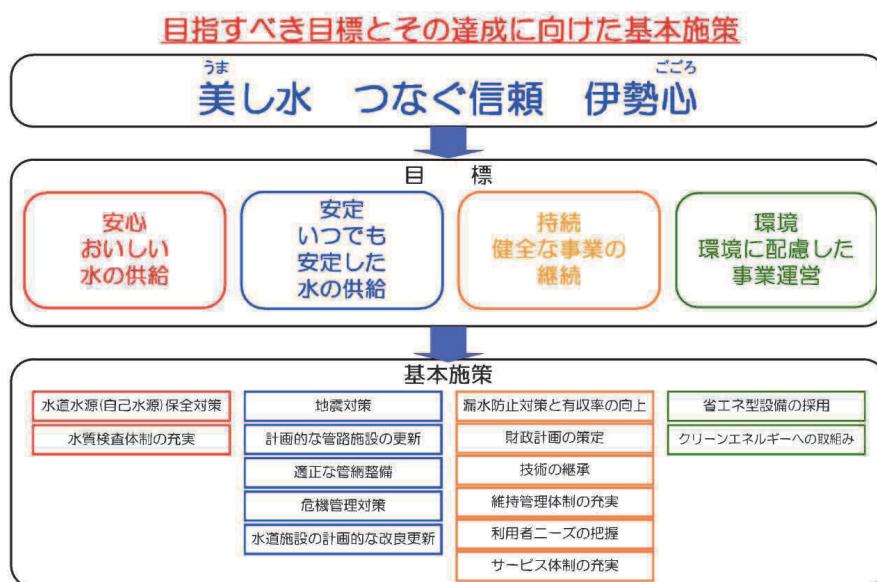
図：上位計画と伊勢市水道事業ビジョンの計画期間

1.3 伊勢市水道事業基本計画と国の新水道ビジョン

1.3.1 伊勢市水道事業基本計画（平成 20 年度）

本市は、平成 17 年 11 月に旧伊勢市、旧二見町、旧小俣町、旧御園村の市町村合併により、新しい伊勢市として歩み始めました。これにより、水道事業は伊勢市水道事業、二見町水道事業、小俣町水道事業の 3 事業を伊勢市水道事業として統合し、安全であり効率的な運営を開始しました。この水道事業の統合を受け、将来にわたる安全でおいしい水の安定した供給を持続するために、伊勢市水道事業のあるべき姿を「伊勢市水道事業基本計画」として作成・公表しました。

伊勢市水道事業基本計画は、平成 21 年度からの 10 年間とし、目標年度は平成 30 年度としています。



図：伊勢市水道事業の目指すべき目標
(伊勢市水道事業基本計画：平成 20 年度)

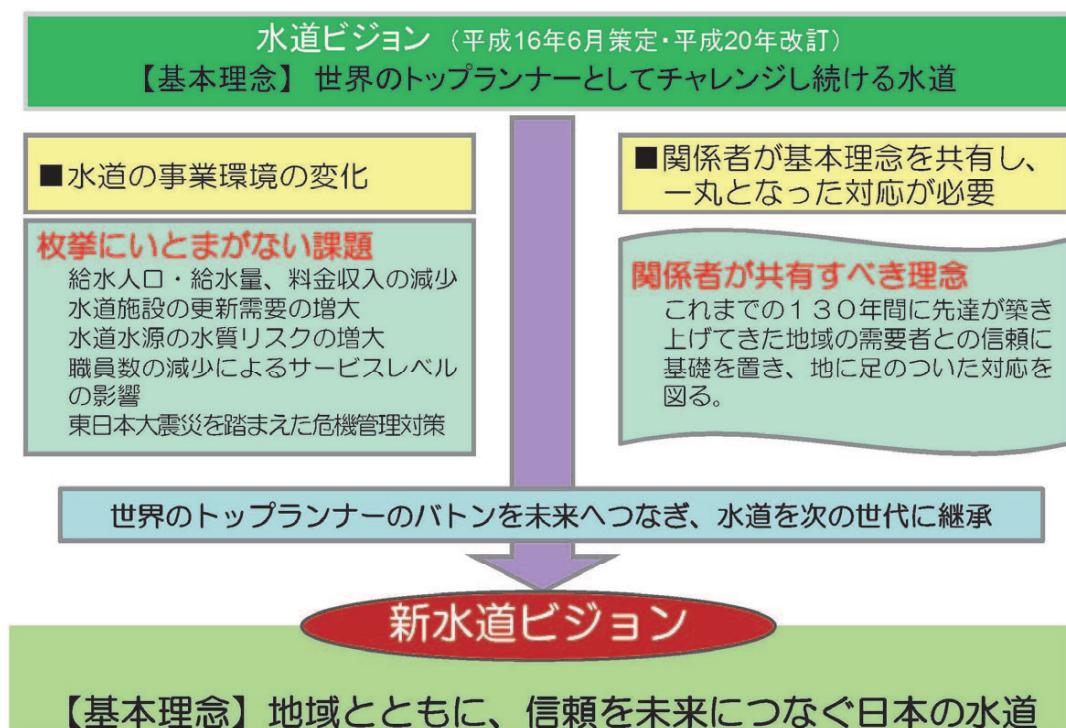
1.3.2 国の新水道ビジョン

厚生労働省は、水道を取り巻く経営環境の大きな変化に対応するため、これまでの「水道ビジョン」（平成16年6月策定、平成20年7月改訂）の全面的な見直しを行い、平成25年3月に「新水道ビジョン」を策定しました。

新水道ビジョンで掲げられている基本理念と水道の理想像を以下に示します。

■ 新水道ビジョンの基本理念

厚生労働省の「新水道ビジョン」では、「水道の給水対象としてきた『地域』とその需要者との間において築きあげてきた『信頼』の概念を重要視し、関係者が共有する基本理念を『地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道』とし、関係者それぞれが取組に挑戦すること」としています。

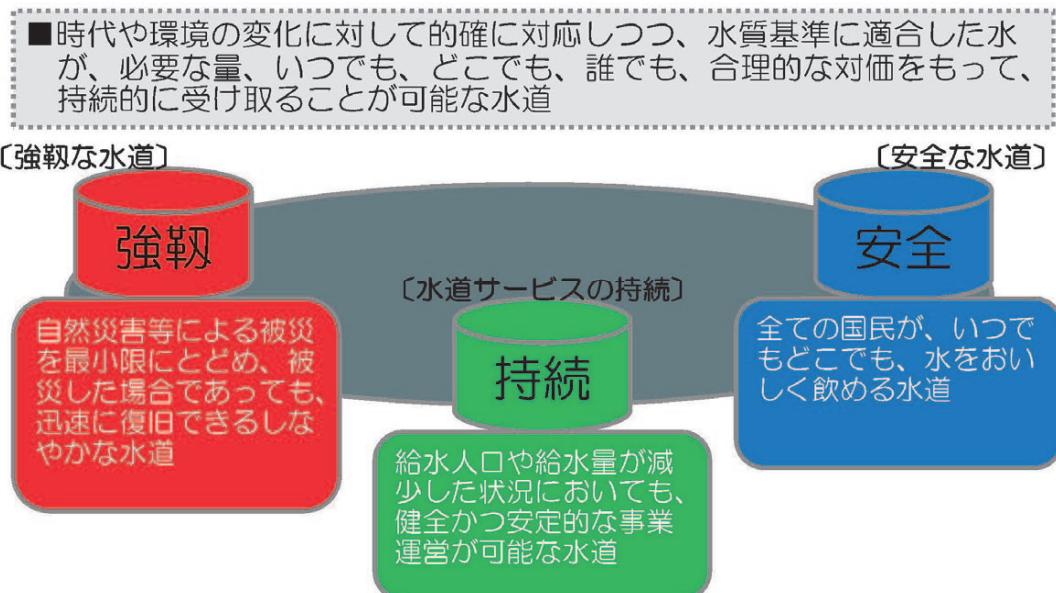


図：新水道ビジョンの基本理念
(出典：新水道ビジョン（平成25年3月：厚生労働省健康局))

■ 新水道ビジョンが示す水道の理想像

新水道ビジョンでは、望ましい水道を「時代や環境の変化に的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道」としています。そして、このような水道を実現するために、「安全：水道水の安全の確保」、「強靭：確実な給水の確保」、「持続：供給体制の持続性の確保」の3つの観点から、50年後、100年後の水道の理想像を具体的に示し、関係者間で共有することとしています。

水道の理想像



50年後、100年後を見据えた水道の理想像を提示し、関係者間で認識を共有

図：新水道ビジョンが示す水道の理想像

(出典：新水道ビジョン（平成25年3月：厚生労働省健康局）)